

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, February, 2006

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

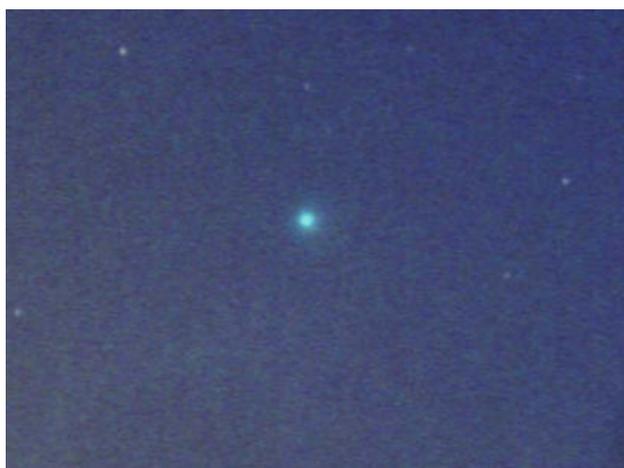
2月の状況 (佐藤)

C/2006 A1 (Pojmanski)

1月末まで全光度が7.5等ぐらいであったが、2月1.54日 UT、西オーストラリアの Jim Gifford は、11×80 双眼鏡で全光度が6.5等に増光しているのを観測した。その後南半球の各地で6等台に増光していることが確認された。南オーストラリアの Michael Mattiazzo (25×100 双眼鏡) の観測では、2月7.76日 UT: $m_1=6.1$ 、 $dia=4.5'$ 、 $DC=6$ 、 $Tail >50'$ (p.a. 205°) であった。その後順調に光度を増し、日本で観測される頃は5等台で見られるものと期待された。

2月22日7時38分(日本時間) oaa-comet メーリングリストに熊本県南小国町の宇都宮章吾氏から「OAA comet の皆様、おはようございます。熊本の宇都宮です。C/2006 A1 (Pojmanski) を15cm 25倍双眼鏡にて2月22日06時00分から07分(JST)まで初見できました。視野内の恒星2個からおよその明るさは6.5~7.0等級の明るさでした。1分角くらいの大きさで集光が強いです。」とのメッセージが入った。恐らく、北半球最初と思われる観測の第一報であった。さらに、2月25日には、雲間の薄雲越しであったものの別物のように明るく見えているとのことであった。

一方、埼玉県上尾市の門田健一氏は「東に回ってルーフの陰を抜けたので、観測できました。でも、薄雲でかなり条件が悪く、尾は確認できませんでした。…」と報告している。その後、日本各地でも高度が上がるにつれて条件が良くなり月末には細く長い尾もハッキリと捉えられるようになった(写真 a、b)。



(写真 a) C/2006 A1 (Pojmanski) 2006,02,25
5h 48.3m ~ 50.0m (JST) exp. 10s x6 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 b) C/2006 A1 (Pojmanski) 2006,02,28
5h 19m ~ 23m (JST) exp. 4m 60cm L + TM400 Film
芸西天文台 関 勉

次の眼視観測がある。

C/2006 A1 (Pojmanski)

2006	UT	m1	Dia	DC	Tail	p.a.	Trans.	Seeing	Instru.	Observer	Note
Feb.21.88	6.5-7	1	-	-	-	-	-	-	25×15cmB	宇都宮章吾	
	24.86	5.5	2.5	6	0.4	-	-	-	25×15cmB	"	薄雲あり
	27.81	4.9	2.5	7	0.1°	265°	3/5	7/10	25×10cmB	佐藤裕久	高度 3.5°
	27.85	4.7	5	7	1.5	260	4/5	7/10	60×20cmR	関 勉	

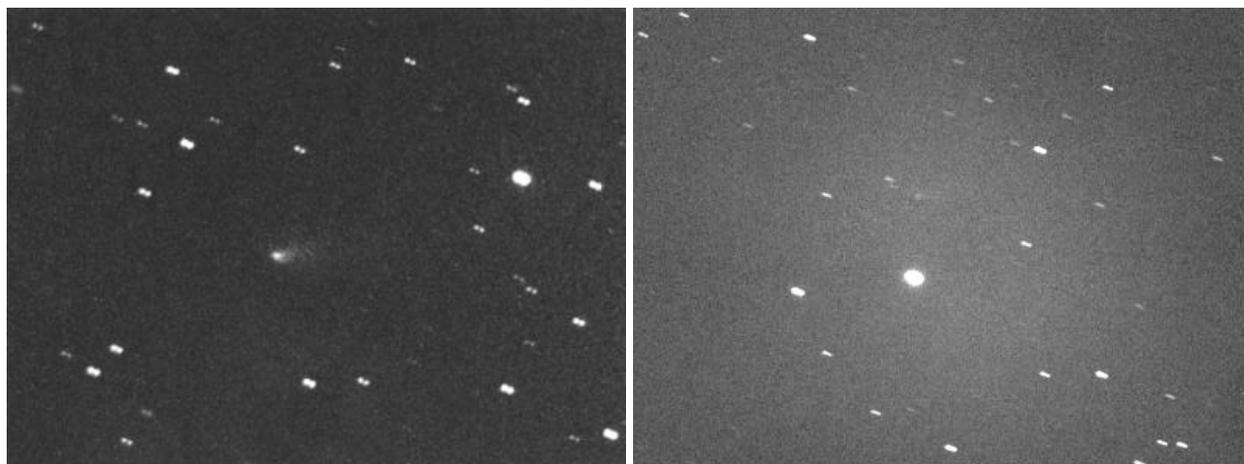
73P/Schwassmann-Wachmann 3 (写真 c、d)

2月26日、MPEC 2006-D47 にこの彗星の分裂核 G が Goodricke-Pigott 天文台と Mt. Lemmon サーベイで観測されたことが公表された。上尾市の門田健一氏は、この報告を受けてフレームを調べたところ、2月13日の画像からモーションが一致する像を見つけた。

G核として公表されたが高知市の村岡健治氏や筆者の計算ではE核とリンクできることがわかった。さらに多くの観測が求められている。

横浜市の吉田誠一氏はこの彗星の1995年の回帰で観測された分裂核(A, B)、2001年の回帰で観測された分裂核(B, E)、2006年の回帰で観測された分裂核(B)の同定にはいくつかの説があるとして、3つのシナリオについて核分裂の系統図を作成した。

<http://www.aerith.net/comet/catalog/0073P/index-j.html> を参照。



(写真 c) 73P-C/Schwassmann-Wachmann 3 2006, 02, 28 (写真 d) 73P-B/Schwassmann-Wachmann 3 2006, 02, 24
 1h 7m ~ 28m (JST) exp. 21m 60cm L + TM400 Film 0h 05.0m ~ 20.3m (JST) exp. 80s x6 MN61 + CCD
 芸西天文台 関 勉 三重県伊賀市上野 田中利彦氏

その他発見された彗星は次のとおり。

P/2005 SB₂₁₆ (LONEOS)

2005年9月30.38日 UT に、LONEOS サーベイによって発見された 2005 SB₂₁₆ について多くの観測が、彗星状であることが報告された。19.0年の短周期彗星であった。(IAUC 8668, 2006 Feb. 8)

C/2006 D1 (Hill)

2月22.36日 UT、R. Hill は Catalina スカイサーベイの画像から尾が p.a. 300° におよそ 40 伸びた彗星を発見した。(IAUC 8678, 2006 Feb. 24)

その他比較的明るい彗星は、C/2005 E2 (McNaught)、29P/Schwassmann-Wachmann 1、P/2005 XA₅₄ (LONEOS-Hill)、C/2003 WT₄₂ (LINEAR)、32P/Comas Sola、P/2004 VR₈ (LONEOS) などであった。その他やや暗い彗星では、71P/Clark などがあった。